

窮したときには 変化が訪れる

努力策励^{さざい}し、心怯^{ひる}まず、怠^{おろそ}ることなく、体力と智力^{そな}を具^{そな}え、犀^{さい}の角のようにただ独り歩^あめ。
(スッタニパータ68)

「困」という字は、「木が四角い枠の中にあるといつか成長が止まる」ということに由来します。しかし、その窮地に力を発揮するのが生命というもの。岩の割れ目からそびえ立っている、岩手県の「石割桜」がその好例です。

これはおそらく、昔、岩の小さな裂け目に桜の種が落ちたのでしよう。その隙間の中で根が成長しても、あるところで止まってしまいます。こ



れがまさに先の「困」の状態。しかし、木の根は先端から岩を溶かす物質を出すと知られており、長い年月をかけて少しずつ岩を溶かしながら根を伸ばしたのです。そしてついに地面に到達し、一気に根を張り、幹が成長して岩を割ったのでしよう。

生命が持つ強い遺伝子は、窮したときに開花します。厳しい場面でも諦めなければ、必ず道は開けるのです。